2022 夏号

まつさか歴史文化かわら版

No.14

旧小津清左衛門家のつくばいに紫陽花を浮かべました

昔の日本の夏は、今ほどではなかったとは言われていますが、それでも夏の暑さはたいへんなもの、

これを乗り切るさまざまな知恵、しかも粋な知恵が風情のある夏の暮らし方の中に伝えられています。

6月には「建具替え」といって夏のしつらえをするのが日本の文化でした。障子から簀戸(すど)へ、家の中に風を通し、日が差す縁から離れた部屋の奥で和菓子などを食べてくつろぐ・・・。

明治・大正期ともなると扇風機やアイスクリーム製造器などの新しいアイテムが登場し、松阪の商家ではこれらを使って、夏を楽しんでいたことがうかがえます。

私たちもこの風情と粋を感じ、現在の夏を楽しみたいものですね。

旧長谷川治郎兵衛家のアイスクリーム製造機と食器

今回の展示のみどころ！

旧長谷川治郎兵衛家　長谷川家と紀州藩

令和4年6月14日(火)～9月18日(日)

元和5年（1619）、徳川家康の子頼宣（よりのぶ）の和歌山に入封とともに、伊勢国内の松坂・白子・田丸地域は紀州藩に編入されました。宝暦５年（1755）、紀州藩は江戸藩邸へ公金を送るため、有力な松坂の江戸店持ち商人に為替御用（かわせごよう）を命じ、松坂御為替組（おかわせぐみ）を組織させます。長谷川家６代邦淑は、安永４年（1775）に松坂御為替組に加盟し、７代元美は松坂御為替組上座・五十人扶持を拝命しました。その後、松坂御為替組は三井組とともに銀札（紀州藩の紙幣）の発行も命じられました。

本企画展では、長谷川家と紀州藩の係わりを数々の資料からたどります。

〔紀州藩御用文書箱〕江戸時代後期

松坂御為替組（おかわせぐみ）として、所持することが許された道具の一つ。黒漆塗の地箱に、紀州藩徳川家の定紋である三つ葉葵が朱漆で施されている。

旧小津清左衛門家　松阪と木綿　―木綿は勢州松坂を上となし―

令和4年7月12日(火)～10月16日(日)

松阪木綿は、松阪地域で生産される縞模様が特徴の木綿織物です。江戸時代の百科事典『和漢三才図会』には、「木綿布」の項に「勢州松坂を上となし、河州摂州これに次ぐ･･･」とあり、松阪の木綿を最上級品と紹介しています。

江戸時代を通じて、多くの伊勢商人は松阪木綿を取扱い、江戸ではブランド商品「松坂嶋（まつさかじま）」として、江戸っ子たちに人気を博しました。

本企画展では、伊勢商人の目玉商品であった松阪木綿の資料をご紹介します。

〔東都大伝馬街繁栄之図〕天保15年（1844）

原田二郎旧宅　紀州藩校「松坂学問所」

令和4年8月16日(火)～11月27日(日)

江戸時代、全国の諸藩は、藩士の子弟を教育するための学校「藩校」を設けました。松阪城下においては、文化元年（1804）に松坂学問所が開校しますが、開校に際して、松阪の豪商たちが強力に支援し、蔵書や備品類を寄進しました。他の藩校の多くが、入学者を藩士の子弟に限定したのに対し、松坂学問所は士農工商の階層を問いませんでした。

本企画展では、江戸時代の松阪の教育を担った藩校「松坂学問所」をご紹介します。

〔松坂学問所蔵書印〕

おしらせ

豆知識クイズにチャレンジして缶バッジをもらおう！

旧長谷川次郎兵衛家では、出題されたクイズの答えを探りながら館内を見学して、全問正解するとオリジナル缶バッジを1個プレゼントします。

どなたでもＯＫ、ぜひご参加ください！

藍のたたき染め体験

◆ **真夏が旬の藍の生葉を使って、ミニ巾着へたたき染を楽しんでみませんか。**

日　時：7月31日（日）

第1部 午前10時～

第2部 午前10時30分～　（所要時間：約1時間30分）

募　集：各10名（計20名）

場　所：旧長谷川治郎兵衛家

参加費：300円（ミニ巾着1枚付）別途入館料が必要です

お申込：旧長谷川治郎兵衛家まで

トピックス

珈琲をはじめました！

―長谷川大正座敷で寛ぎ（くつろ）のひとときを！―

旧長谷川治郎兵衛家では、毎週土曜日限定でコーヒーの提供をはじめました。陶芸家、印藤幸恵さん作の松阪もめんの縞柄をイメージしたオリジナルカップです。歴史と文化を感じながらコーヒーを味わってみてください。

開館3周年記念図録『長谷川治郎兵衛家』販売中！

旧長谷川家所蔵資料の逸品や国指定重要文化財の建造物群などの写真編、長谷川家の歴史や建造物・庭園・所蔵資料・年中行事などを紹介した解説編の２部構成からなる図録を販売しています。ぜひお買い求めください。

お問合せは旧長谷川治郎兵衛家まで

◆Ａ４判、118頁、令和4年3月刊行、　価格 2000 円

～松坂学問所と松阪商人～

江戸時代、全国の諸藩は藩士の子弟を教育するために次々と「藩校」を設けます。そのような中で、文化元年（1804）に紀州藩校「松坂学問所」が代官小路（現在の松阪市殿町）に開校しました。

開校時の記録「開講之節取扱覚」によれば、開校式直前になって学問所に必要な備品が揃っていなかったため、「聖像（孔子像）」は三井宗十郎（松坂北家4代高蔭）、香炉卓・香合・銀盤・香道具類は長谷川次郎兵衛（6代邦淑）、錫神酒徳利・白木三宝は鈴木（伊豆蔵）甚十郎など、松阪城下の豪商たちから必要な備品を急遽借用したと記されています。

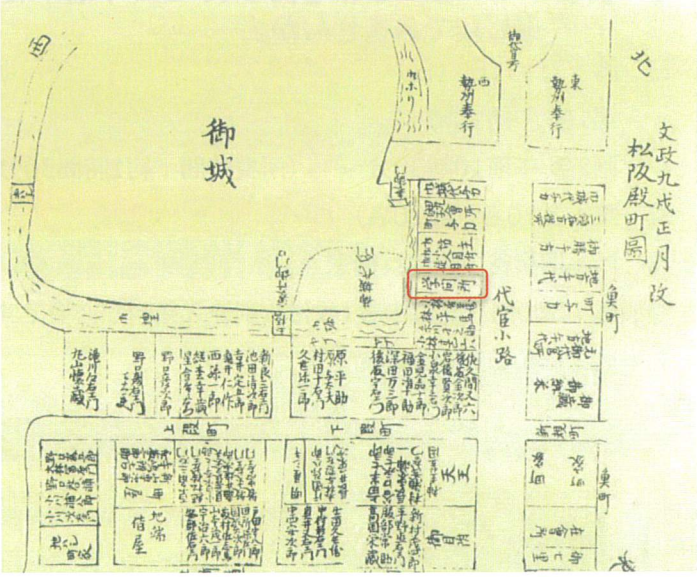
また、こうした商人たちは学問所開校後に書籍の寄進を行なっています。『南紀徳川史』によれば、学問所の蔵書は国書、漢文、文集等、洋書等1,152部13,903冊に及びましたが、これらは長谷川次郎兵衛（8代元貞）や小津清左衛門（9代石斎）らの寄進によるものが多かったようです。

文化13年（1816）閏8月12日付の長谷川元貞の日記には、孔子の編纂と伝えられる歴史書『春秋』の代表的な注釈書『春秋左氏伝』と、儒教の経書のうち『論語』『大学』『中庸』『孟子』の4つの書物を総称した『四書』を学問所へ寄進する願書の写しが書かれています。また、翌14年6月24日付の元貞の日記にも、明の梅膺祚編の字書『字彙』のほかに、見台・卓・香炉などの道具類を松坂学問所へ寄進する願書の写しが書かれています。

このように、松坂学問所は松阪商人の強力な支援を受けて経営されていました、また、寄進された書籍からは、商人層の教養の高さもうかがえます。

その後、松坂学問所は慶応２年（1866）に殿町大手通り（市教委棟付近）へ移転して松坂学習館、明治２年（1869）に松坂郷学所と改称され、同５年に廃止されています。

今回紹介した資料の一部は、原田二郎旧宅の企画展「紀州藩校　松坂学問所」（令和4年8月16日(火)～11月27日(日)）において展示しています。ぜひご来館ください。

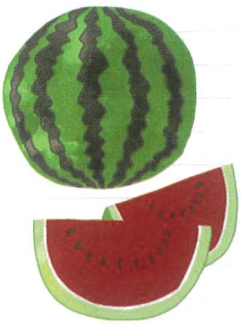


【「松坂殿町図」文政9年】

歴史文化3施設のご案内

【開館時間】9：00～17：00
（16：30までにご入館ください）
【 休　館 】水曜日（祝日の場合は翌平日）
／年末・年始

【連絡先】
◆**旧長谷川治郎兵衛家**
Phone：0598-21-8600
◆**旧小津清左衛門家**
Phone：0598-21-4331
◆**原田二郎旧宅**
Phone：0598-23-1656



発行　NPO法人松阪歴史文化舎
〒515-0082 松阪市魚町1653
Phone: 0598-21-8600
E-mail　info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com
HP　https://matsusaka-rekibun.com/